

観光の視点でみた都市間比較 ～福岡市・札幌市の観光資源比較～

福岡大学工学部社会デザイン工学科 辰巳 浩, 堤 香代子, 白水 勝洋

研究の背景と目的

日本の経済社会の発展において「観光立国の実現」が課題となっている。しかし、国内の宿泊観光旅行の回数及び宿泊者数は年々減少している。観光立国を実現するためには、地域ごとの観光資源を生かした取り組みが重要である。

福岡市と札幌市を観光の視点で比較し、市の現状を把握、問題点・改善点を抽出し、福岡市の今後の課題を見つけることを目的とする。本研究では、行政が公開している観光統計データによる比較と旅行ガイドブックによる観光資源の比較を行い、課題を抽出した。

観光統計データの比較

- ・宿泊者数は北海道・札幌市の方が福岡県・福岡市よりも多い。
- ・入込者数は福岡県・福岡市の方が多い。

理由として

- ・北海道・札幌市は観光目的の宿泊者が多く、1人ではなく多数で泊まることが多いのに対し、福岡県・福岡市では、観光目的でない、ビジネス(出張)など1人での宿泊が多い。よって宿泊客は北海道・札幌市の方が多いと考えられる。
- ・入込に関しては、北海道は他県と繋がっていないのに対し、福岡は周りの県と陸続きに繋がっているため、交流が活発で、福岡県・福岡市の方が多いと考えられる。

観光資源の比較

旅行ガイドブック「楽楽」(JTBパブリッシング社)をもとに、福岡市と札幌市の観光施設と、近隣の観光資源の比較を行った。

この結果、福岡市の観光施策の課題として下記の4点が挙げられる。

近隣の観光資源の評価と比較

地域	観光スポット	類似する観光名所	旅行ガイドブック「楽楽」			JTB	
			モデルルート	ページ数	施設数	国内ツアー数	
福岡市 札幌市	門司港・下関	門司港レトロ 小樽運河周辺	○	8	24	35	10
	小樽		○	19	71	241	
福岡市	太宰府	—	○	9	25	21	
	小倉	—	×	4	18	44	
	秋月	—	×	3	15	3	
	柳川	—	○	6	27	8	
札幌市	旭川	—	○	10	44	137	
	富良野・美瑛	—	○	29	95	49	67

観光施設の評価と比較

■ 福岡市 ■ 札幌市

施設の種類	施設名	モデルルート	「楽楽」での取り上げ方	施設の評価
赤煉瓦の建造物	赤煉瓦文化館	×	△	△
	北海道庁旧本庁舎	○	○	◎
シンボルタワー	福岡タワー	○	△	○
	さっぽろテレビ塔	×	○	○
祭り	「博多町屋」ふるさと館	○	△	○
	櫛田神社	○	△	○
	さっぽろ雪まつり資料館	×	△	△
市を代表する公園	大濠公園	×	○	○
	大通公園	○	○	◎
夜の名物	屋台	○	○	◎
市のシンボル	札幌市時計台	○	○	◎
展望台	羊ヶ丘展望台	○	△	○

積極的に観光施設のPRを行う

福岡市の赤煉瓦文化館と札幌市の北海道庁旧本庁舎は赤煉瓦の建造物であり、国指定の重要文化財であり、市のHPでも紹介されている。しかし、ガイドブックをもとに施設を評価した結果、赤煉瓦文化館は北海道庁旧本庁舎より評価が低い結果となった。

評価に差が出た要因として、福岡市は**観光施設のPRが不足している**と考えられる。



赤煉瓦文化館



北海道庁旧本庁舎

福岡市のシンボルを定める

札幌市には市のシンボルとして札幌市時計台があるが、福岡市には明確な市のシンボルがない



その理由として

札幌市には市民憲章があり、その中で市のシンボルとして位置づけられている。

市のシンボルは観光の面で重要な要素の一つであるため、福岡市のシンボルを定める必要がある。

福岡市のシンボルとして挙げられる建造物

福岡市を象徴する施設: 福岡タワー、赤煉瓦文化館等
福岡市の歴史的建造物: 櫛田神社、筥崎宮等

屋台を守る

屋台は福岡を代表する重要な観光施設の一つである。しかし、福岡市によって一代限りと定められているため屋台は**福岡市からなくなる**可能性がある。

屋台は多くの問題を抱えているが、屋台がなくなることは福岡の観光においてマイナスである。そのため、屋台を守る必要がある。

対策

- ・規制の緩和
- ・屋台村の設立 等



屋台が抱える問題

- ・衛生面での問題
- ・通行の妨げ
- ・騒音
- ・道路の汚れなど

観光振興の核となる人材を育てる

観光の面での福岡市と札幌市の相違点の一つとして『**観光カリスマ**』の存在が挙げられる。

観光カリスマとは国土交通省が観光振興を成功に導いた人物を「観光カリスマ百選」として選定した人物のこと。

北海道	福岡県
加森 公人(札幌市) 小川原 格(小樽市) 伊藤 孝司(上富良野町) 大西 雅之(釧路市) 坂本 和昭(帯広市) 山口 昭(栗山町) ロス・フィンドレー(倶知安町)	選定された人物がいない

観光振興の核となる人物が必要

